

企業名： 島精機製作所

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

まず、経営理念が目立つところに明確に書かれていて、それらが抽象的な言葉やキャッチフレーズだけではなく具体的に噛み砕いて説明されている部分があった点がわかりやすく感じられた。さらに、企業の目標とそれに対する取り組みが Q&A の形式で書かれていた部分があり、ただ単純に長い文章のみで情報が書き連ねられているよりも理解しやすく感じられた。それらに加えて、ミッションよりも細かい目標がキーワードや項目ごとに分けて書かれていたため、読み手にとって非常にわかりやすかった。

社会とのつながりの観点では、近年注目されている SDGs に関しても詳しい記述があり、さらにその中でもどの項目について目標を定めているのかが具体的に書かれていた点が企業だけではなくて社会の中で企業がどのような役割を果たしたいかという目標もわかり良い点であると感じた。このような社会での取り組みに関して、企業活動の対象となるステークホルダーごとに分けて企業がそれぞれの対象に対してどのように取り組んでいるかということが具体的に書かれていたため、抽象的な概念のみの提示で終わっていない点がよかったと感じた。

さらに、企業自体や社会の中での大きな目標だけではなく、目標達成のために何が必要かということまで詳細に書かれていたため、企業が目指す姿につながる道筋が複数のステップに分けられていて、直接的な目標だけでなく達成に至るための過程もわかりやすかったように感じた。それに加えて、この報告書では非財務情報がメインになっているが、適宜客観的な数値である財務情報を用いて目標を提示している。このことによって、目標が可視化されて企業外の人間でも理解しやすくなると同時にそれらの現実性も高まり、会社が目指す姿を理解しやすくなっていると感じた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

インタビューのページでは開発方針について、執行役員開発本部長の島崎宜紀氏が「常に新しい技術の開発に挑戦し、『世の中になくはない企業』となることを合言葉としています。」と明言していることから、当企業は最新技術と創造性の点で競争優位性を保とうとしていることが明確に分かった。統合報告書内の他の箇所でも「なくてはならない企業をめざす」といった内容は複数箇所に書かれていた。具体的には、最新の情報技術を活用しながら需要の推測と生産、そして販売までの一連の流れを一つの企業が提供するサービスで完結させることができるという点がこの企業が独自の強みだと認識している部分であると理解した。単純な機械の生産と販売にとどまっていない点が、企業が社会の中で創出している価値であるということができると考えた。さらに、2016年～2020年の特許の出願件数と保有件数グラフで示されていることから、高い技術力や企業の独自性をアピール強くアピールしていることが分かった。この点からも他の企業が持っていない武器を持っていることを理解することができた。

それに加えて、統合報告書の内容自体よりも事業の性質への言及になるが、当企業が手がけている事業の領域が競合他社が比較的多すぎない種類であると考えられるため、競争

においては有利そうだと考えられる。

以上から、企業の独自性や武器といえる要素が何であるかがはっきり記述されているように感じたため、統合報告書からこの会社の競争優位性は理解できた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上で述べた事柄と重複するが、最新の技術を利用しながら常にその開発に挑戦しているという発言内容から、競争優位性を持続させるための取り組みに当企業が力を入れていることが分かった。さらに、違う箇所に書かれているインタビューでは企業の課題として「自分の価値を作り上げることが大切」とあり、ただ単純に最新技術の開発で競争優位性を維持しようとしているのではなく、社員それぞれが情報や時代の変化に対するアンテナを張ることで社会の動きに応じた創造的な開発をすることでも競争優位性を持続しようとする姿勢を読み取ることができた。

以上より、最新技術を用いることも重要ではあるが単に新しいことに挑戦し続けることだけではなく、社会の変化に応じて創造的に動こうという姿勢が競争優位性を持続する要素であると理解した。つまり、当企業にとっては技術と変化への適応能力(またはその能力を持った社員という人材)という見えざる資産を競争優位性維持のための武器になると分かった。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人材育成に関する詳しい記述があったため、人的資本の価値向上に積極的な企業だということを読み取ることができた。そのため、この企業では社員に対する教育制度が充実しているのだろうと推測することができ、自分自身がこの企業に就職する場合のことを想定すると、スキル向上が見込めるだろうと期待が高まった。さらに、プログラミング言語の習得も期待でき、技術面での教育制度も確立されていることが分かった。具体的な話になってしまうが、言語名として将来性がある程度高いPythonが挙げられていたことも良い点であると考えた。それに加えて、ESGのページではさまざまな項目に関して具体的なデータが示されていて、それらデータからは従業員が働きやすい環境を整えることへの意識が感じられた。その中でも特に興味深く感じた指標は「ストレスチェック受検率・高ストレス率」であった。近年は十数年前に比べてメンタルヘルスが注目されているが、ここにその意識があらわれているように感じた。それだけではなく、コロナ禍でもパフォーマンスを最大化することができる働き方と環境づくりを工夫しようとしている点からも、人材育成に重点を置いていることが読み取れる。最後に、企業が社員1人ひとりが自ら考えて創造的になることを求めていることが分かり、企業という大きな組織の中でもひとりひとりの社員の人的資本の価値を向上させようという意識を企業側が持っていることも明確に分かった。特にこの部分からは、前述した企業の教育体制に加えて社員が主体的に考えて行動することを求めているという方針が伝わってきた。

これらの要素を総合的に考えると、当企業では社員のスキルが向上する教育制度が整えられていることに加えて労働環境についてもよく考えられている企業であることが分かった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

基本的に書かれている情報から企業の目標や競争優位性を理解することができて分かりやすく書かれ、必要な情報は網羅されている統合報告書であると感じた。改善点を述べるのであれば、同じ情報を報告書内の異なる箇所でも繰り返して述べていることであると感じた。大切な情報を繰り返し述べることは、読み手に企業からのメッセージを届ける点で非常に有効であると考えられるが、反復する情報は絞った方がより伝わりやすいのではないかと考えた。私自身、今回この統合報告書の全ページに目を通して企業に関する情報を得たが、複数箇所に書かれていて理解しにくく感じてしまった部分もあった。具体的には、企業理念は何度も繰り返すことに効果があると感じたが、一方で企業の課題は複数箇所に分散して記述されていると読み手側の情報が複雑化してしまうことがあった。ただし、繰り返し読み手に伝えることはメリットも大きいと考えられるため、必ずしもまとめるべきということではなく全体のバランスを報告書全体のバランスを見ながら考えるのが良いだろうと考えた。さらに、競争優位性の具体性について改善の余地があると考えた。企業の競争優位性について「なくてはならない企業」を目指すという大きな目標とそれを維持するために最新の技術の開発を続けることや人材育成に力を入れているということは読み取りやすかったが、その独自性は具体的に何であるのかということを理解するためにはやや読み返しと思考を必要としたように感じた。